

街を行く

第14回 仙台 Sendai

独眼竜も見守っています

青葉城址の高台から街全体を眺め、政宗公ならば今回の震災をどのような気持ちで受け止めたか、彼なら復興をどう進めるかを考えていました。どうであれ、馬上で多少苛立ちながらも見守っているのだろうなど。小生は気付かなかったのですが、地元の人がこの高台から街を見わたすと浜辺の松林が消失していることがわかるそうです。その風景は寂しいものでしょう。でも、街の中心部は震災当時を感じさせません。むしろ活気づいています。その活気を肌で感じようと今回も歩き回りました。

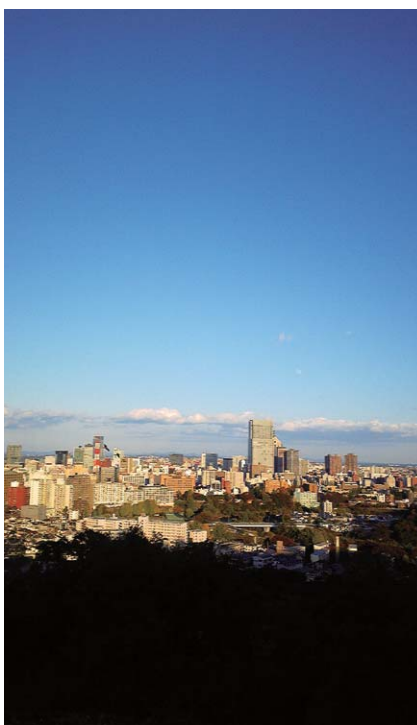
伊達(仙台)藩の江戸幕府への反骨精神からなのでしょうか、小生の感じるこ

ろ、この街はいつも凜としています。行き交う人すべてというわけではなく、他に都市計画の進んだ街があるなかで飛び抜けているわけでもなく、新しい開発が群を抜いているわけでもないのに、です。思うに、東北の中心として栄えてきたプライドからなのでしょうか。結局、わからずじまいですが、昼食でおいしい牛タンにありつけたのでよし。これが軟らかいのなんのって最高でした。通のひとに言わせれば、ほどよく硬いものもいいのだそうですが、小生は通ではないので大満足です。お腹も満たされて、震災が不動産へどう影響を及ぼしたかについて考えてみました。ご想像のとおり、賃貸住宅に空きがない

うえにまだまだ足りません。オフィスも新耐震ビルでの空室が激減しています。ひどい揺れを経験したわけですから、そうしたビルにこだわろうとする行動は当然あるでしょう。東京も新耐震ビルへの移転が真剣に考えられる流れにもなってきました。供給不足の賃貸住宅はかなりの値上がりが起こっています。通常ならば市場賃料の上昇は歓迎ですが、今回においては複雑な気持ちです。イヤな言葉ですが、これが「震災特需」です。でも肝心なのは長い眼でみて、よい意味での「特需」としなければなりません。政府にははやく復興ビジョンを明確に示してもらいたいと思っています。なるべくは震災に触れず、他の観点から街をみて歩こうと思っていたのですが、今回は無理でした。でも、ここで感じた活気はすごかったですよ。皆さんも仙台の街、いや東北を歩いてみてください。百聞は一見にしかず。



何も変哲もない都市「仙台」は、凜とした雰囲気の特徴



南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年株式会社ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。

BLOG「南一弘の負けない不動産投資」
http://blog.livedoor.jp/minami_kazuhiro